

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立武中学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】 郷土の歴史を知り，他者に伝え深める活動（事例テーマ②）

<DX以前>

生徒1人1人ではなく、グループごとに1枚の広幅用紙にまとめて発表を行っていたため、役割分担等もあったが、活動する生徒が限定的であった。

<ボランティアガイドから郷土の歴史を学ぶ>



生徒の声

<学んだことをさらに深める>



ボランティアガイドさんの説明を聞きながら、タブレット端末を使って、プレゼン資料に必要な写真を撮ることができた。

ボランティアガイドさんの説明を聞き、さらに深めてみたいことを自分で調べ、友だちと相談しながら、自分だけの発表資料を作り上げることができた。

どんなプレゼンテーション資料を作れば、みんなに調べたことが伝わるのかを考えながら資料を作成することができた。

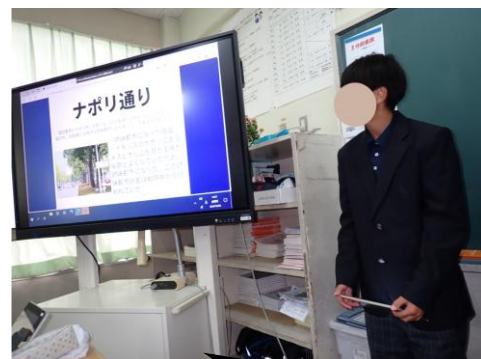
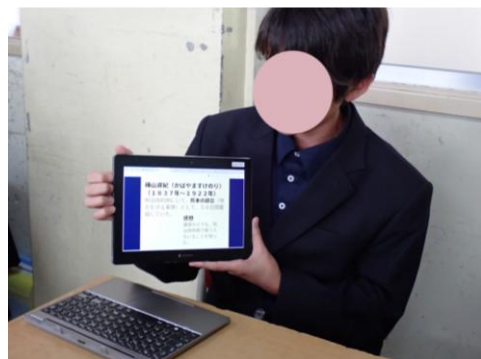
DX推進

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立武中学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】 郷土の歴史を知り，他者に伝え深める活動（事例テーマ②）

<学んだことを他者に伝える（個人⇒全体発表）>



個人発表とすることで、プレゼン能力を高めることができる。また、同じガイドの説明を受けても各個人で探求したい部分が異なるため、内容が違う発表となり、多様な考え方を知ることができる。

班の代表として、保護者も含めたクラス全体の前で発表する経験ができ、この経験を今後の活動に生かしていくことができる。

<取組後>

1人1人がプレゼン資料を作り、発表することを目標に設定し、ボランティアガイドの説明の場面からタブレット端末を使用できるようにしたことで、自分の発表をイメージしながら話を聞くことができた。

さらに、ガイドの説明から気付いたことや新たに疑問に思ったことなどをタブレット端末を使って調べて学習を深めることで、1人1人が充実した発表を行うことができた。

また、班の中から発表者を互選し、互いのプレゼン資料をクラウドを利用して共有し、より良い発表資料を作成できた。

DX推進